

元 気 の 源 通 信

目標設計・人事労務・社会保険事務手続き・助成金

社会保険労務士 深川順次
福岡市東区香椎4-11-17-201
TEL 092-661-0552

(今月の言葉)

- ① 企業の目的は社員の幸せ
- ② 技術は企業を前進させるエンジンである
- ③ 社員の可能性をトコトン信じる
- ④ 信じ合い響き合い人は育つ

(樹研工業社長 松浦元男)

2005年7月号 (第41号)

M&A。いまや会社そのものが売買の対象になる時代です。安く買って高く売る。今年の株主総会ではこれにどう対処するのかが大きな話題となりました。また高額納税者のトップがサラリーマンということで世間の注目を集めました。彼は投資顧問会社の社員だそうです。

言わば虚業が幅を利かせています。お金を儲ける心構えや技術が大手を振って歩いています。お金や社会的地位にしか価値観をもてない社会。(アメリカでは戦争を生業とする企業が増えています)危うさを感じずにはおられません。

そういう中で、「日本の原点はものづくりにあり」と技術を育て、匠を育て、大企業とわたり合っている企業があります。「百万分の一の歯車」の樹研工業です。

匠 を 育 て る

企業の目的は社員の幸せ

こんな社長の下で働きたい、そうしたら自分の潜在能力をもっと引き出せるかもしれない、と思わずにはられない社長がいます。樹研工業の松浦社長です。彼は企業は「経営者とその企業で働く社員のものであり、株主のものではない」「働く者全てが幸せになるためにある」と言い切っています。

社員が輝いています。社員がこんなにイキイキと学びかつ働いている企業は他にないかもしれません。従業員100人の小さな会社です。(海外のグループまで入れると従業員は約1000人)本社では日本語、英語、中国語、韓国語、ドイツ語が飛び交い全世界を股にかけて営業しています。工場では他社が真似できないような超微細、高精密な部品を作っています。1000分の1ミリの誤差が指先でわかる職人。百万分の一グラムの歯車の金型をつくった技術者。現代科学技術の粋を集めた機械を設計製作できる技術者。10億分の1メートルという気の遠くなるような微細加工ができるナノプロセッサを操作できる技術者。学会では博士達にまじってドイツ語で堂々と研究発表する技術者がいます。みんな金メダルを狙えるような世界レベルの匠に育っています。

一流大学、一流進学高校出はしません。ほとんどが地元の工業や商業高校出身者です。先着順で採用した若者達です。元暴走族・ヤンキーあり、放浪人ありです。その彼等彼女等がどうして一流の匠に育つことができたのか。

環境、機会、チャンスを与える

人間は環境の産物です。一流にするためには一流の環境を与える。これが松浦社長の持論です。「『弘法筆を選ばず』などと言うが、われわれは弘法様ではない。筆はしっかりと選ばなければならない。誰でも世界一流の設備機械を前にすれば身も引き締まり、身体の底からやる気がみなぎってくる。これが動機付けの大切な要点」

五軸ナノプロセッサや1ナノ（10億分の1）メートルを識別できる光学顕微鏡の導入などはその典型でしょう。勿論道具ではありません。

元左官の若者は2年間のヨーロッパ勤務というチャンスを活かし、英語だけではなくドイツ語も習得、現在電子部品学会などに参加しドイツ語で研究発表するまでに成長しています。

総務で入った女性は、周りの女性たちが英語や中国語でドンドン営業をやっていることに圧倒され悔しさのあまり自費で6ヶ月間のアメリカ留学を希望。いまや1億円の売上管理をするまでに成長しています。

社員の可能性をトコトン信頼する

『天は人に二物を与えず』と言われているが、一物は必ず持っている」これも松浦社長の持論です。人を育てるということはこの一物を見だし、背中を後押ししてやることだといいます。

ある若者の一物を見出すのに3年かかりました。最初は何を聞いても「うん」とか「はあ」とかでこれはちょっとひどいと感じていましたが、1年、2年するうちにだんだん鋭いものを持っているのがわかってきたと言います。いまやパソコンのOSやアプリケーションに関しては社長の先生だそうです。全社員の前でプレゼンテーションも堂々とやります。彼も匠の道を歩み始めました。

社員を育てるために最も必要なもの、それは企業トップの行動だといいます。

① 企業トップが率先して勉強する

「経営者の行動は、企業内では絶対的な影響を持ちます。企業トップが勉強しない企業では、社員の知的向上はあり得ません。企業トップの品質に関する思想と知識は、そのまま企業良心の精神的基本」

② 将来のビジョンと現在の状況、長期計画と当面の作戦計画の具体的提示

③ 「社員の安心の拠り所」を提供する

「社員が安心して働く、その安心の源は身分保障です。具体的には、毎月決まった日に給料が支給される。毎年少しずつでも所得が増える。そして年をとっても元気なうちは働く場所がある」

この「安心と希望のための保障」もまた社員を育てるために大切だといいます。

狙いは金メダル、世界一

樹研工業は百万分の一グラムの歯車をつくり世界を驚嘆させました。次のターゲットはナノ加工です。ナノとは10億分の1メートル単位です。これがどれほど超微細なのはピンときませんが、それを実現するためにはナノプロセッサという最新鋭機、工場は完全な免震構造、+-0.01度の恒温室、高レベルのクリーンルーム、湿度60%が要求されます。次世代の産業技術である光技術の世界に参入すべく日々勉強とトレーニングを開始しています。

「こういった新しい技術、それも世界ナンバーワン、世界初と言った金メダルを狙う」から社員は燃える。まさに最高の動機付けです。

もちろん基礎は徹底的に教え込みます。そのときは師弟関係です。新入社員を選手にするまでは基本をたたきこむ。社員もまた選手となるために基本トレーニングをくりかえす。「基本とは長い歴史の中で培われてきた、最も効率のよい手段、形であり、精神的なものは介在しない。したがって形が身につくまでは一切の反論は許されません。全ての基本が身についたときが、選手への変身の第一歩です。そして今まで勉強した基本動作に疑問が生まれたとき、あなた自身の一流一派が始まるのです」これも松浦社長の持論です。そして師弟関係はコーチと選手の関係に変わらなければならないと述べています。

「信じ合い響き合って人は育つ」「若い社員が私の周りで育っていく、その姿こそ私にとっての大きな喜びであり、誇りでもある」（松浦元男）